五島から始める、持続可能な産地形成モデル

生産・物流・保管・加工・販売をつなぐ福岡ソノリクの挑戦

FUKUOKA SONORIKU GOTO AGRI PROJECT

FUKUOKA SONORIKU
株式会社 福岡ソノリク
×
ごとう農業協同組合
×
一般社団法人
離島振興地方創生協会

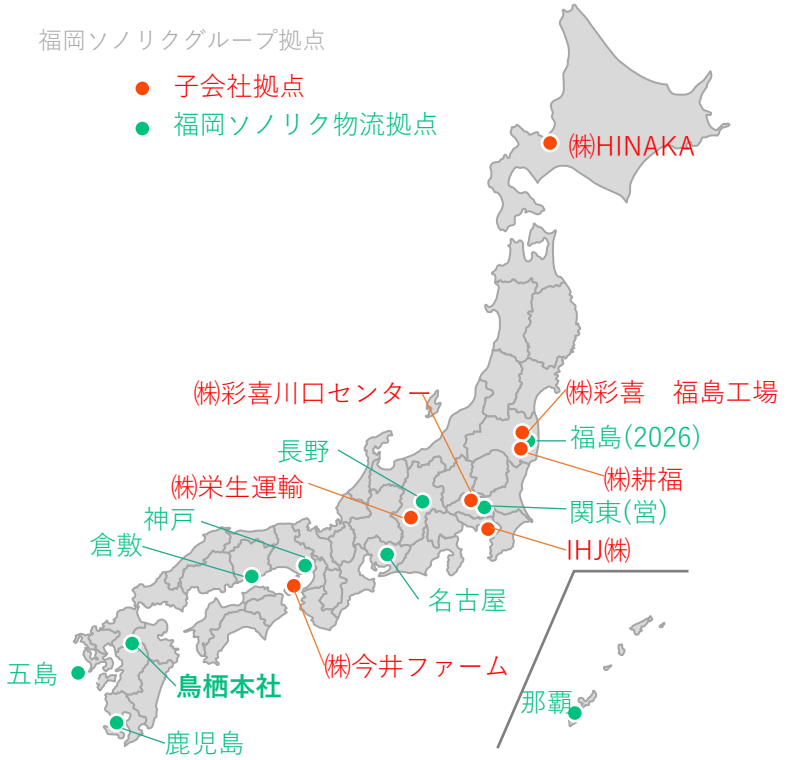
五島市
まるごとう
×
長崎県
NAGASAKI PREFECTURE

Copyright © Fukuoka Sonoriku Co.Ltd., All Right Reserved.

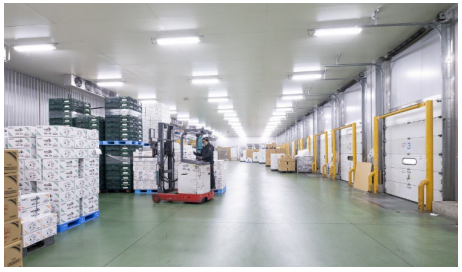
㈱福岡ソノリク会社概要

FUKUOKA SONORIKU
株式会社 福岡ソノリク

会社名	株式会社福岡ソノリク
代表取締役社長	園田 壽俊
設立	1992年4月13日
資本金	67,500千円
本社所在地	佐賀県鳥栖市姫方町1660番地
従業員数	405 名(うちパート135名)/ 2024年4月30日現在
拠点所在地	佐賀、鹿児島、岡山、兵庫、埼玉、福島、沖縄
事業概要	農作物に特化した①運送、②保管、③青果調達・販売、④カミサリーの一貫物流
関係会社	• 株式会社園田総合ホールディングス • Sonoriku (Thailand) Co.,Ltd. • 株式会社彩喜 • 株式会社今井ファーム • 株式会社栄生運輸 • 株式会社HINAKA • 株式会社耕福 • 農事組合法人ソノリク有機農業農事組合

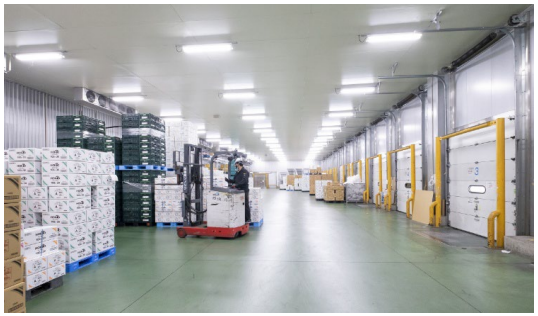








長期保管長期保管技術による実証結果一例





冷蔵庫	分類	品目	入庫時期	保管期間	保管結果
特許	果物	シャインマスカット	9月下旬	4ヶ月	• 4ヶ月を経て、外観は収穫時とほぼ変わらず ✓ ロスはほぼなし
特許	果物	レモン	22/4月上旬	49日	• 20~30日程度、品質維持可能 (個体によっては多少軟化)
特許	果物	デコポン	22/4上旬	49日	• 30日程度、袋保管において品質維持可能 ✓ バラ保管の場合、20日程度
特許	果物	温州みかん	20/12下旬	70日	• 20日程度、バラ保管にて品質維持
特許	葉茎菜	パクチー	11月上旬	40日	• 40日程度、品質維持可能 ✓ 鮮度保持袋に入れてDBで保管
特許	葉茎菜	水菜	22/9月中旬	14日	• 14日は、DB保管により一定品質維持 ✓ 保管方法によって、改善の余地あり
特許	葉茎菜	大葉	22/9月中旬	14日	• 同上
特許	葉茎菜	小松菜	22/9月中旬	14日	• 同上
特許	果菜	スナップエンドウ	20/12下旬	70日	• 40日程度、品質維持可能 ✓ 60日時点で多少の軟化
特許	果菜	絹さやエンドウ	20/12下旬	70日	• 20日程度、品質維持可能 ✓ 40日時点で1割程度が劣化
特許	果菜	カラーピーマン	20/12下旬	70日	• 20日程度、バラ保管にて一定品質維持 ✓ 一部個体にて軟化
特許	果菜	パプリカ	6月中旬	20日	• 20日程度、バラ保管にて一定品質維持 ✓ 一部個体にて軟化
特許	根菜	安納芋	9月	1年	• 1年間、品質維持可能 ✓ でんぷん質の糖化による糖度向上

福岡ソノリク　五島での産地形成の取組について

01　五島で進める産地づくり

標準化・記録・改善による生産基盤の構築

02　産地の成長と今後の展望

生産基盤の整備から、さらなる拡大へ

03　バリューチェーンによる事業化

生産拡大を物流・保管・加工・販売につなぐ

01.五島で進める産地づくりー標準化・記録・改善による生産基盤の構築ー

01

五島で進める産地づくり

①技術の標準化

・栽培マニュアルの作成と普及
・勉強会の開催

②管理の見える化

・アグリノートの活用
・作業・生育・収量を記録し、次作の改善につなげる

01.五島で進める産地づくりー標準化・記録・改善による生産基盤の構築ー

関係機関と現場データをつなぎ、改善を繰り返す

① 標準化　栽培マニュアルを作成

② 実践・普及　生産者へ栽培技術を普及 ・勉強会の開催

③ 記録　アグリノートで作業・生育・課題を蓄積

④ 改善　データをもとに栽培体系・省力化を見直す

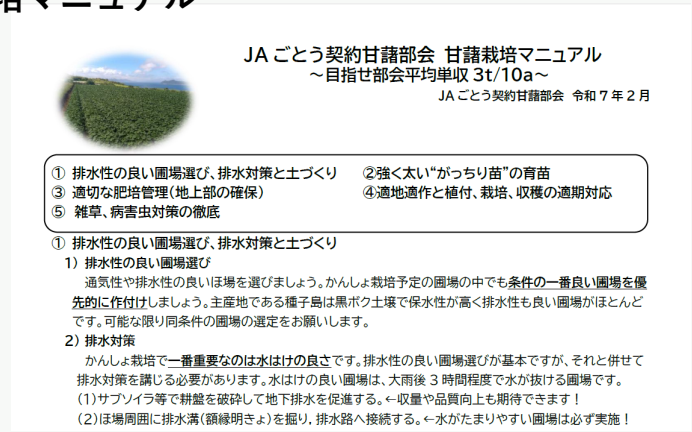
連携体制

生産者・JAごとう
産地・品目の知見を共有し、現場で使える内容へ整理

長崎県五島振興局
栽培技術・地域条件を踏まえて内容を検討

福岡ソノリク
販売条件と実践結果を反映し、普及と改善を推進

栽培マニュアル

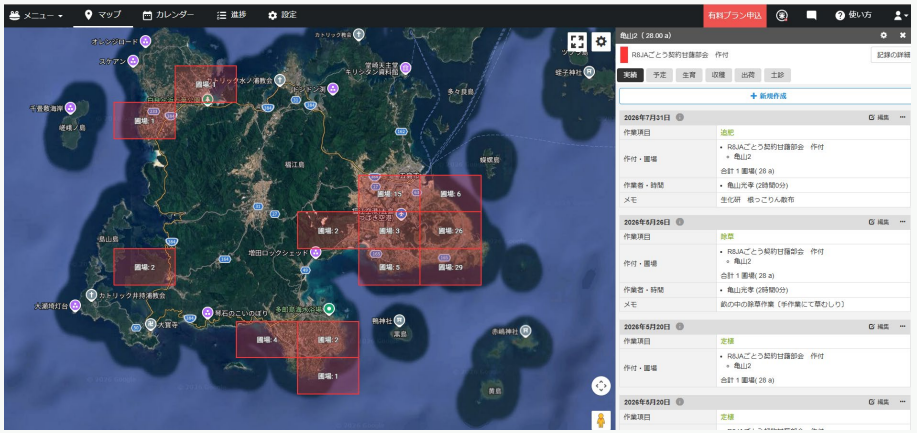


JA ごとう契約甘藷部会 甘藷栽培マニュアル
～目指せ部会平均単収 3t/10a～
JA ごとう契約甘藷部会 令和７年２月

① 排水性の良い圃場選び、排水対策と土づくり　②強く太い“がっちり苗”の育苗
③ 適切な肥培管理（地上部の確保）　④適地適作と植付、栽培、収穫の適期対応
⑤ 雑草、病害虫対策の徹底

① 排水性の良い圃場選び、排水対策と土づくり
1) 排水性の良い圃場選び
通気性や排水性の良いほ場を選びましょう。かんしょ栽培予定の圃場の中でも条件の一番良い圃場を優先的に作付けしましょう。主産地である種子島は黒ボク土壌で保水性が高く排水性も良い圃場がほとんどです。可能な限り同条件の圃場の選定をお願いします。
2) 排水対策
かんしょ栽培で一番重要なのは水はけの良さです。排水性の良い圃場選びが基本ですが、それと併せて排水対策を講じる必要があります。水はけの良い圃場は、大雨後 3 時間程度で水が抜ける圃場です。
(1)サブソイラ等で耕盤を破砕して地下排水を促進する。←収量や品質向上も期待できます！
(2)ほ場周囲に排水溝（額縁明きょ）を掘り，排水路へ接続する。←水がたまりやすい圃場は必ず実施！

アグリノート



①作成して終わりではなく、現場で使いながら更新する

（栽培マニュアル抜粋）



JA ごとう契約甘藷部会 甘藷栽培マニュアル
～目指せ部会平均単収 3t/10a～

JA ごとう契約甘藷部会　令和７年２月

① 排水性の良い圃場選び、排水対策と土づくり　②強く太い“がっちり苗”の育苗
③ 適切な肥培管理（地上部の確保）　④適地適作と植付、栽培、収穫の適期対応
⑤ 雑草、病害虫対策の徹底

① 排水性の良い圃場選び、排水対策と土づくり

1）排水性の良い圃場選び

通気性や排水性の良いほ場を選びましょう。かんしょ栽培予定の圃場の中でも**条件の一番良い圃場を優先的に作付け**しましょう。主産地である種子島は黒ボク土壌で保水性が高く排水性も良い圃場がほとんどです。可能な限り同条件の圃場の選定をお願いします。

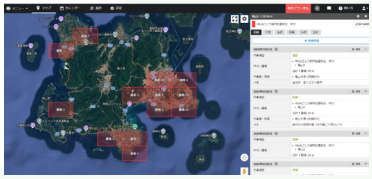
2）排水対策

かんしょ栽培で**一番重要なのは水はけの良さ**です。排水性の良い圃場選びが基本ですが、それと併せて排水対策を講じる必要があります。水はけの良い圃場は、大雨後 3 時間程度で水が抜ける圃場です。

（1）サブソイラ等で耕盤を破砕して地下排水を促進する。←収量や品質向上も期待できます！

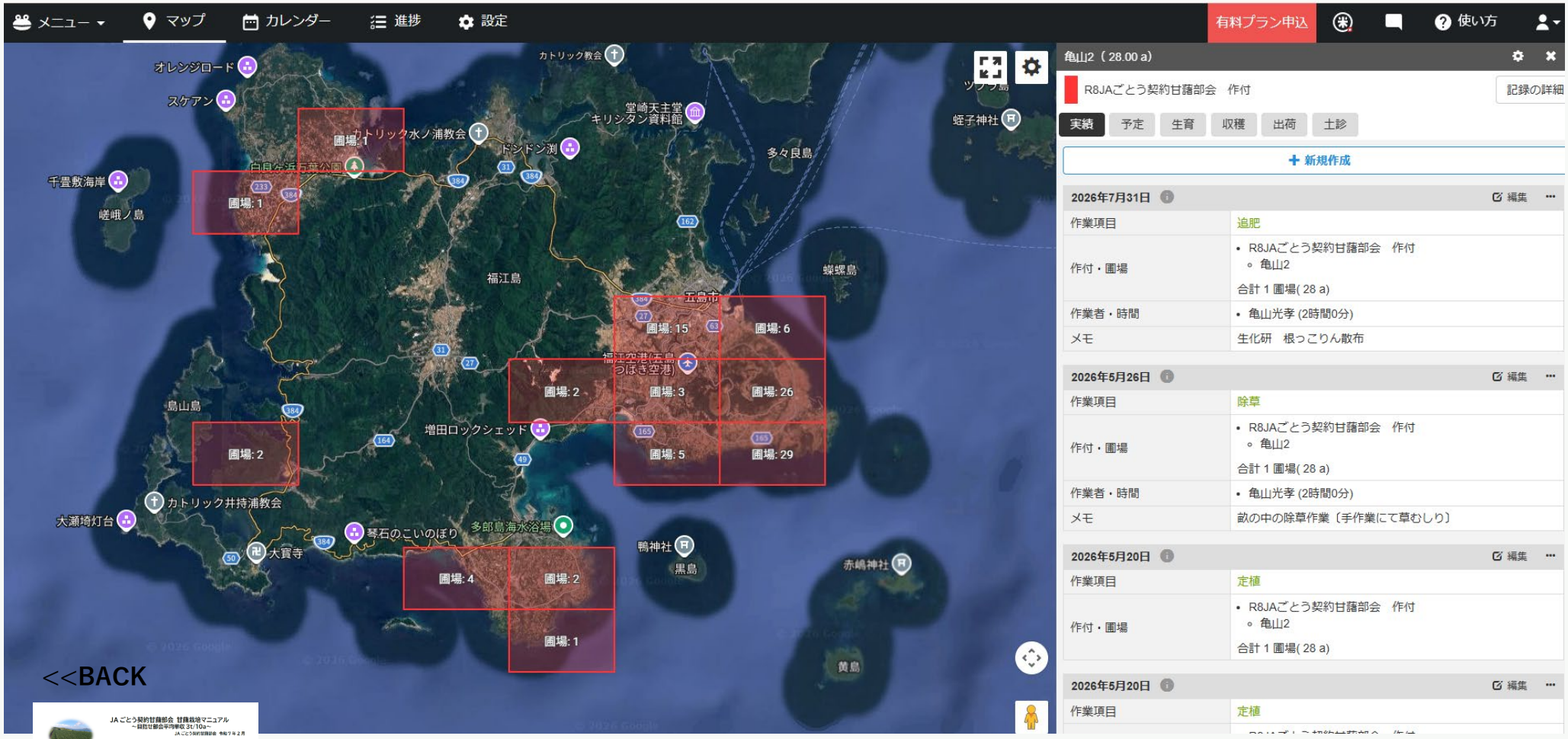
（2）ほ場周囲に排水溝（額縁明きょ）を掘り，排水路へ接続する。←水がたまりやすい圃場は必ず実施！

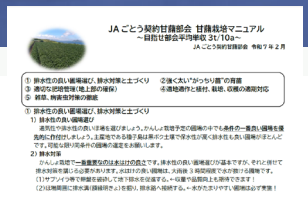
NEXT>>



②関係機関と現場データをつなぎ、改善を繰り返す

（アグリノート管理画面）





関係者の知見と現場データをつなぎ、地域全体で改善できる仕組みをつくる

福岡ソノリク　五島での産地形成の取組について

01　五島で進める産地づくり

標準化・記録・改善による生産基盤の構築

02　産地の成長と今後の展望

生産基盤の整備から、さらなる拡大へ

03　バリューチェーンによる事業化

生産拡大を物流・保管・加工・販売につなぐ

02

産地の成長と今後の展望

技術の標準化、記録・改善によって整えた生産基盤をもとに、五島の産地をさらに拡大

①既存生産者を主体とした慣行農業による拡大

②ソノリク有機農業農事組合による有機農業の拡大

慣行・有機　産地としての成長は一体で進める。

①慣行農業の拡大：契約栽培を軸に令和4年から着実に拡大

JAごとう契約甘藷部会の島内既存生産者を中心に産地を形成

生産面積・生産者戸数の推移

R4	R5	R6	R7	R8	R12
2.2ha	9.5ha	14.8ha	18.6ha	20.0ha	30.0ha
6戸	12戸	21戸	21戸	27戸	27戸

R4からR7で、面積約9.5倍・生産者数約4.5倍へ

今後の拡大

①葉 たばこ・畜産などとの組み合わせ生産

②既存経営の農地・労働力を活用

③マニュアル、アグリノート活用

④ドローン等最新機械の検討・推進

ポテカルゴによる収穫



ドローン実証実験



②有機農業の拡大：令和7年に法人設立

「農事組合法人ソノリク有機農業農事組合」を核に、有機農業を拡大

生産面積の見込

R7	R8	R9	R10	R11	R12
0 ha	6ha/11ha 栽培中	12ha	15ha	20ha	25.0ha

今期の実践を土台に、農地・獣害対策・機械をそろえて段階的に拡大予定

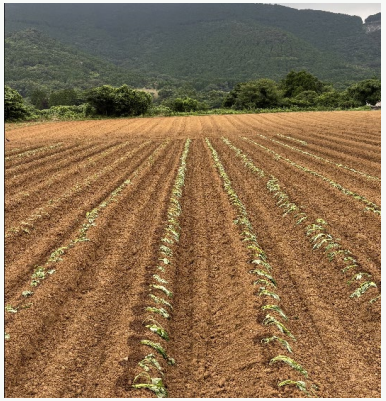
【農事組合法人の概要】

法人名	農事組合法人ソノリク有機農業農事組合
栽培品目	有機甘藷（令和8年は有機転換中） 今後、在来野菜の展開も検討中
面積	10ha（令和8年） 30ha（将来的に拡大予定）
主要機械	トラクター3台(60,40,20ps)、つる切機3台 掘り取り機2台、プラウ1台、乗用管理機2台 ブレンドソワー1台、畝たて機2台、他
認証	有機JAS認証（令和8年は有機転換中）

10ha農地に獣柵設置



定植時の様子

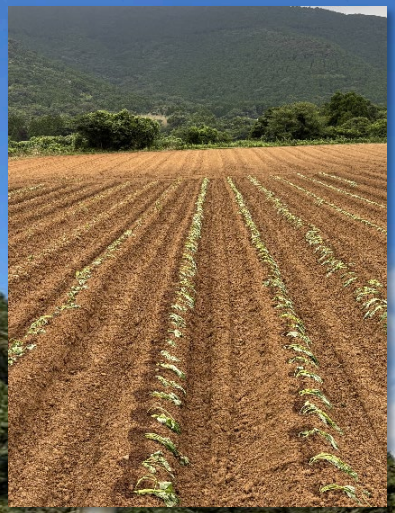


②有機農業の拡大：令和7年に法人設立

・4月　　定植開始(6ha)

・4月～10月　管理作業

・10月　　収穫スタート(80～100t収穫見込)







③令和4年の小さな取組から、2つの生産体系へ

慣行農業の実績を土台に、令和7年から有機農業を加え、五島の産地を段階的に拡大

スタート

慣行農業

R4　2.2ha / 6戸
↓
R7　20.8ha / 27戸

現状

生産基盤の強化

栽培標準化
記録・改善
省力化
R7.有機農業6ha

これから

2つの柱

慣行農業30ha
＋
有機農業25ha

実績を積み上げ、慣行農業と有機農業を両輪とする持続的な産地へ

福岡ソノリク　五島での産地形成の取組について

01　五島で進める産地づくり

標準化・記録・改善による生産基盤の構築

02　産地の成長と今後の展望

生産基盤の整備から、さらなる拡大へ

03　バリューチェーンによる事業化

生産拡大を物流・保管・加工・販売につなぐ

03

生産拡大を物流・保管・加工・販売につなぐ

作れる　運べる　保管できる　売り切れる

①販売から逆算して、産地全体を設計するソノリクの役割

生産・集荷・保管・物流・加工・販売を一つの流れとしてつなぐ

福岡ソノリク 青果販売事業部

需要・販売

販売先が求める品種
規格・数量・時期の決定

福岡ソノリク 産地開発部

産地連携

品目・面積・生産者連携
作付計画の進捗管理

福岡ソノリク 産地開発部

生産支援

苗・栽培技術・機械作業
記録改善

福岡ソノリク 鳥栖本社

集荷・物流

産地集荷・島外輸送・配送

福岡ソノリク 鹿児島支社(物流センター)

保管・選別

熟成・品質管理・規格対応
小分け

福岡ソノリク 青果販売事業部

商品化

営業・規格外活用・
付加価値化

**販売条件を生産計画へ戻し、産地の拡大と販売力を同時に高め、
生産だけで終わらせず、商流までつなぐ**

②地域の役割をつなぎ、継続できる事業にする

一社で抱え込まず、生産・技術・制度・需要を地域内外で分担

生産者

慣行・有機の生産
担い手・作付面積の拡大

JAごとう・五島振興局

生産者連携・栽培普及
技術支援・マニュアル作成

五島市

地域内の調整・支援
制度・農地調整

離創協・関係企業

地域外企業との連携
販路・地域展開の接点

福岡ソノリク

産地設計
集荷・物流・保管・販売

共通目的：生産から消費までのバリューチェーンを構築し、産地を継続させる

③五島の実践を、地域ごとの共同プロジェクトへ

仕組みをそのまま移すのではなく、地域にある機能と不足する機能を組み合わせる

JA・生産者組織	企業・福岡ソノリク	自治体・関係機関
生産基盤	**事業化・流通**	**推進体制**
栽培標準化 生産者への普及 改善	契約栽培 物流・保管・加工 小売・外食への販売	産地計画 農地・人材の調整 技術普及・支援制度

あるものを生かし、不足する機能を補い、地域ごとの産地形成モデルをつくる



作るだけで終わらせない。
地域の農業を、続く事業へ。

生産・物流・保管・加工・販売をつなぎ、持続可能な産地をつくります